

第3回 幼保小合同研修会だより

日時：令和7年7月17日（木）午後3時～午後4時40分

場所：郡山市役所 特別会議室（対面研修）

教育講演

特別支援教育と幼保小連携

～【郡山市版】架け橋プログラムを踏まえて～

小林 徹 氏



講師紹介 郡山女子大学家政学部 生活科学科教授

東京都の中学校特別支援学級担任として25年間の勤務の後、2013年4月より郡山女子大学准教授。2016年4月より同教授。2022年4月より現職。専門は特別支援教育、障害児保育。郡山市幼保小連携事業【郡山市版】幼保小の架け橋プログラム策定検討委員会アドバイザー。郡山市教育支援委員会委員。

小林教授より「幼保小連携推進事業」「架け橋プログラム」のスタートからの歩みとモデル地域での成果や課題について御講話をいただきました。主な内容としては、幼保小の連携がなぜ重要か、「架け橋プログラム」策定の背景と目的、モデル地域における実践内容と現場の工夫、幼児教育施設と小学校の相互理解と協働の必要性などを視点に丁寧に御説明いただきました。その中で、架け橋プログラムは「子どもが安心して小学校に進める」ことを第一に考えた実践であることを再確認し、幼児教育施設（保育所、幼稚園、こども園）と小学校が共通のこども観・発達理解をもつことの大切さを実感しました。モデル地域での事例では、「顔の見える関係づくり」や「双方向の交流」が円滑な接続を支えていることがわかり、その中で、双方を意識した活動や環境の工夫がなされるようになったことが挙げられていました。現場での努力だけでは越えられない課題も多く、今後は国や地方自治体が幼児期の発達の特性や幼児期にふさわしい教育の在り方について、保護者を巻き込んで普及・啓発に取り組むことが必要だと話されていたことが印象に残りました。

資料から

幼保小の接続の改善のポイント

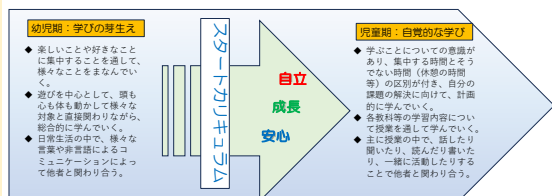
	これまで	これから
目的	小学校への順応	学びの連続
内容	交流活動	カリキュラム編成
期間	数か月	2年
実施単位	施設単位	地域単位

2025/7/17

15

「スタートカリキュラムスタートブック」 （国立教育政策研究所、2015（平成27）年1月）

・ゼロからのスタートじゃない！子どもは幼児期にたっぷりと学んでいます。



2025/7/17

65

アンケートより

- *架け橋プログラムがどのように作られ、実践されていたのかを知ることができた。また子どもの主体的な遊びについて考える手がかりとなった。
- *『園が学校に、学校が園に…というように、どちらかがどちらかにやり方を寄せるのではなく、どちらも認め合って一緒に進めていく』という話を聞いて、今の保育に自信をもつことができた。
- *連携していく上で、子どもたちがやりたいという思いをもち楽しさを感じながら学ぶことができるよう保育者が意図的に環境設定を行ない、試行錯誤しながら展開していく魅力的な活動に取り組んでいきたい。
- *幼保小連携や、架け橋プログラムについて知ることができた。今後どのように取り組んでいったら良いのかを具体的に教えて欲しい。
- *実際に小学校と保育所で交流事業を行ったり、見学したりする機会作りは、現場での企画は難しいため、自治体主体で企画、実施が望ましい。